

令和5年度
旭川市社会教育基本計画
点検・評価報告書（原案）

令和5年（2023年）7月

旭川市教育委員会 社会教育部

目 次

社会教育基本計画の点検・評価について	1
基本目標 1（市民一人一人の主体的な学びの機会の充実）	3
基本目標 2（市民の学びを支える環境の整備）	10
基本目標 3（地域における学びの循環）	14
基本目標 4（市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実）	19
基本目標 5（郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成）	24
学識経験者の意見	28

社会教育基本計画の点検・評価について

1 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」とします。）を行い、その結果に関する報告書を作成することとされています。

これを受け社会教育部では、「旭川市社会教育基本計画」に基づき、前年度に実施した事業や取組について点検・評価を行っており、本報告書はその結果をまとめたものです。

学識経験者への意見聴取後、旭川市社会教育委員会議での審議を経て、本報告書と、学校教育部が別途行う「学校教育基本計画」に基づく点検・評価とを併せて、「旭川市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書(案)」としてとりまとめた上で、教育委員会会議で議決の後、市議会へ提出するとともに、公表します。

2 点検・評価の対象

社会教育部が令和4年度に行った事業や取組を対象に点検・評価を行っています。

3 点検・評価の方法

(1) 「基本目標」と「成果目標」について

「旭川市社会教育基本計画（計画期間：平成28年度～令和9年度）」では、計画に掲げられる5つの「基本目標」ごとに、社会教育行政が、市民や地域などに関わり「どのような状況を目指したいのか」という点を「成果目標」として設定しています。さらに、この成果目標の達成度を数値的に把握するための「成果指標」を設定しており、これが令和4年度の目標値に達した場合に「達成」、達していない場合に「未達成」として、達成状況を示しています。また「未達成」指標については、前年度の実績値との比較結果を矢印で示しています。

(2) 「基本施策」について

「基本施策」では、具体的な事業や取組についてその実績を記述するとともに、一部の事業や取組については、グラフを用いて推移を示しています。

(3) 「今後の課題と改善に向けた方向性」について

主な事業や取組について、その課題を整理するとともに、今後の事業改善へ向けた方向性等を、具体的に記述しています。

(参考)「旭川市社会教育基本計画」の体系

社会教育推進基本方針

- 基本理念**
- 主体的に学び、その成果を地域づくりに生かす
 - 地域を知り、学び合いながら、絆を深め、郷土愛を育む

社会教育基本計画

基本目標	成果目標	基本施策	主な取組
基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実	成果目標 1 子育て世代や高齢期などの人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応えることができるよう学習機会の充実を図る。	基本施策 1-1 多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供	主な取組 1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進 主な取組 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実 主な取組 1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実
		基本施策 1-2 子育てをする家庭の教育力の向上	主な取組 1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実 主な取組 1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備
基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備	成果目標 2 社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するなど、市民が学習しやすい環境を整備する。	基本施策 2-1 施設運営や事業展開に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備	主な取組 2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備 主な取組 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備
		基本施策 3-1 地域における教育力の向上	主な取組 3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備 主な取組 3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援
基本目標 3 地域における学びの循環	成果目標 3 シニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境を整備する。	基本施策 3-2 家庭、地域、学校の連携の推進	主な取組 3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実
		基本施策 4-1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実	主な取組 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実 主な取組 4-1-2 文化芸術活動への支援
基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実	成果目標 4 人々が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る。	基本施策 5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成	主な取組 5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用 主な取組 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進
		基本施策 5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成	主な取組 5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用 主な取組 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進

社会教育

基本目標 1 市民一人一人の主体的な学びの機会の充実

【成果目標 1】子育て世代や高齢期などの人生における各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できるよう、学びに関する情報提供を行うとともに、様々な学びのニーズに応えることができるよう学習機会の充実を図る。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座の受講者数	社会教育課	4,150人	863人	未達成	▲
	公民館事業課	120,307人	42,111人	未達成	◇
	中央図書館	251人	100人	未達成	◇
	科学館	55,090人	77,917人	達成	—
社会教育課^{*1} 		公民館事業課 			
中央図書館 		科学館 			
成果指標 2		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
社会的な課題やライフステージに対応した課題を解決するための講座への参加者の満足度	公民館事業課	82.6%	72.9%	未達成	▲
成果指標 3		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
まなびネットあさひかわのアクセス件数	社会教育課	145,125件	158,690件	達成	—
成果指標 4		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
家庭教育の支援に関する講座への参加者数	公民館事業課	8,257人	2,226人	未達成	◇

*1 R 2, 3は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から調査未実施

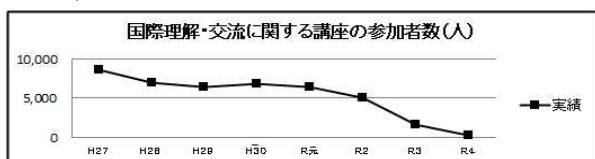
【基本施策 1 - 1 多様なニーズに対応した学習機会、学習情報の提供】

主な取組 1 - 1 - 1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進

1 国際化に伴う異なる文化・習慣への理解の促進

- ・社会教育課では、生涯学習フェアを開催し、都市交流課と連携して、国際交流員が外国の文化を紹介する講座や、JICA海外協力隊の活動や活動地域の食文化を紹介するパネル展を実施しました。
- ・公民館では、JICA等と連携して、ブラジルでの支援事業やアメリカの文化や言語に触れる講座を実施し、国際交流に関心を持つきっかけとなる学習機会を提供しました。

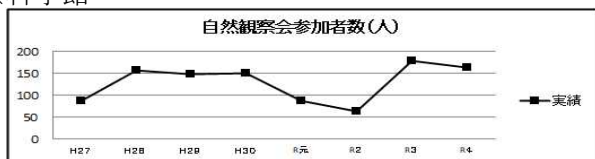
※公民館



2 身の周りや地球規模での資源・環境問題への理解の促進

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、環境部と連携し、食品ロスに関する講座や不法投棄防止等に関するパネル展を実施しました。また、「大雪山カムイミンタラジオパーク構想」の推進を目指し、大雪山や柱状節理、氷瀑、アイヌの伝説が残る立岩・人喰い刀岩等、地域資源を題材とした講座やツアーを実施しました。
- ・公民館では、環境アドバイザーや生ごみマイスター等との連携・協力により、ヒグマの出没状況や生態から野生生物との関わりを学ぶ講座や、生ごみ堆肥づくりを通したごみの減量を学ぶ講座等を開催し、自然・環境に関する理解や啓発を図りました。
- ・科学館では、常設展示のデジタル地球儀「いまの地球とみらいの地球」を用いた「科学館 de SDGs」を通して、環境問題をはじめとした地球規模の様々な課題やSDGsについて解説しました。また、自然観察会や自然体験活動を実施し、旭川周辺の生き物や外来生物の脅威について学ぶ機会を提供しました。

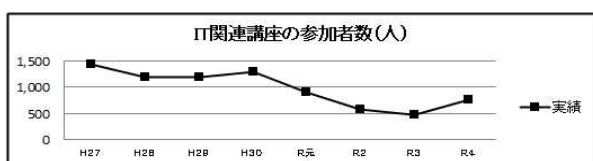
※科学館



3 情報化に伴うICTの利活用の促進

- ・公民館では、文書作成等を学ぶパソコン講座のほか、市民がICTを活用できるようスマートフォンの安全な使い方を学ぶ講座を実施し、知識や技術を習得するための学習機会を提供しました。
- ・科学館では、主に小中学生を対象に「親子ではじめるプログラミング講座」や「マイクロビットであそぼう」、「中高生のためのプログラミング教室Python入門講座」を、成人の初心者を対象に「パソコン基礎講座」や「はじめてのスマートフォン講座」を開催しました。

※公民館

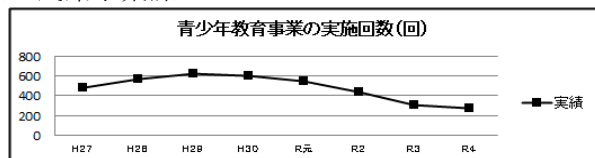


主な取組 1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実

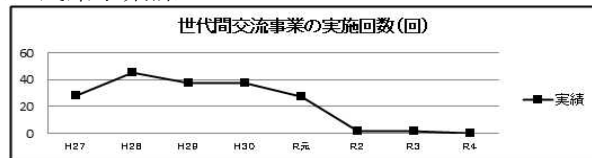
1 幼児、青少年期の生きる力を身に付ける学習機会の提供

- ・社会教育課では、モデル地域における地域学校協働活動として、小学校のクラブ活動の講師を地域の方が担うことで、児童が地域の自然環境や歴史、地域にどのような活動をしている方がいるのかを知る機会や、中学校での地域の魅力を発信する動画づくりにおいて、生徒が民間の映像制作会社からレクチャーを受ける機会をコーディネートしました。
生涯学習フェアでは、出展団体と連携してクイズラリーを実施し、会場近隣の小学校にクイズラリーの用紙を配布して、子どもたちが楽しく学べるよう工夫しました。
- ・公民館では、自然散策やものづくり、料理などの体験事業に加え、地域住民の協力の下で農業体験を実施するなど、様々な知識や経験を身に付ける機会を提供しました。
- ・図書館では、子どもたちがゲームや絵本を通して楽しみながら、SDGsやアメリカの文化・言語等を学ぶことができる講座を実施しました。
- ・彫刻美術館では、小学生が楽しみながら彫刻を体験する「こども彫刻教室」を開催し、木を使って自由に形を創作したり、木製のしおりやマグネットを製作したりする講座を実施したほか、小中学校に彫刻美術館所蔵の彫刻作品を展示する彫刻巡回展示や彫刻に関する出前講座を実施しました。

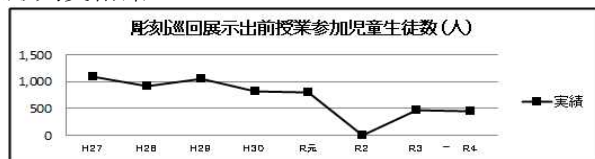
※公民館事業課



※公民館事業課



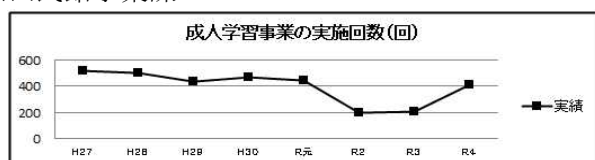
※彫刻美術館



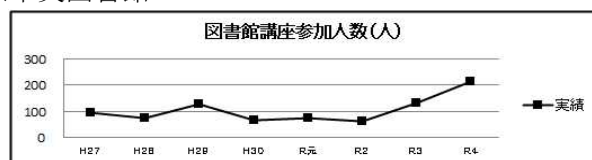
2 成人期のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、他部局や出展団体と連携し、展示や体験、講演会などを通して国際理解や資源・環境問題、異文化、食など様々な学びを提供しました。
- ・公民館では、健康やニュースポーツ、金融、ICTに関する学習等、趣味や教養に関する幅広い分野の講座を実施しました。
- ・図書館では、子どもへの読み聞かせのコツや絵本の選び方を学ぶ講座や、旭川市にゆかりのある作家等の講演会、図書館の蔵書を使い家庭栽培のコツを学ぶ講座を開催しました。
- ・彫刻美術館では、小中学校での彫刻巡回展示を通して、児童生徒の保護者や地域の方にも彫刻作品に触れてもらう機会を提供しました。

※公民館事業課



※中央図書館

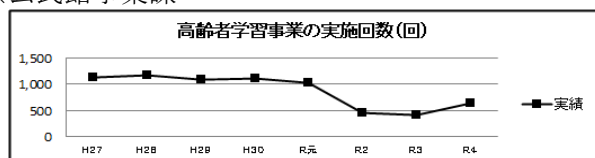


3 高齢期の生きがいづくりなどに関する学習機会の提供

- ・社会教育課では、生涯学習フェアにおいて、ダンス等の発表や作品展示、学んだ成果のパネル展示など、高齢期の団体が取り組む様々な学びの情報を提供しました。
- ・公民館では、年間カリキュラムに基づき、各公民館の百寿大学やシニア大学を中心に、高齢者が社会と関わりを持ちながら豊かに人生を過ごせるよう、高齢者の仲間づくりとともに、一般教養

や軽スポーツ等の講座を実施しました。

※公民館事業課

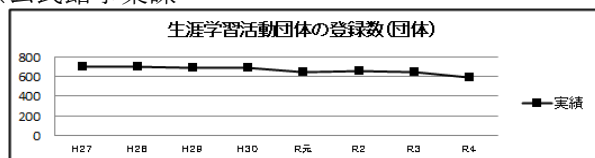


主な取組 1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実

1 講師情報や活動団体に関する情報の提供

- ・社会教育課では、生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」において、講師・指導者や団体の情報を提供しました。また、講師等から提供された具体的な指導プログラムを掲載した「あさひかわ学びの応援講座」を作成し、小中学校や子育て支援センターなどに配布しました。
- ・公民館では、公民館を拠点に生涯学習活動を行う団体の情報をインターネットで紹介するとともに、館内掲示や公民館だより等の紙媒体で情報提供を行ったほか、活動団体と連携し、体験・見学会を実施しました。

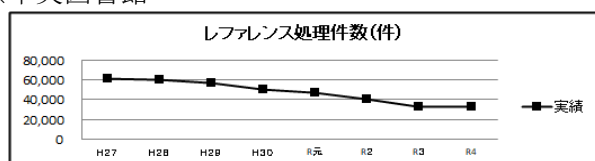
※公民館事業課



2 課題解決を支援する各種情報の提供

- ・社会教育課では、市民が子育てやまちづくりなどの課題について学習する機会として、市や民間の講師が実施している出前講座を「あさひかわ学びの応援講座」に掲載し、ホームページや冊子で周知しました。
- ・図書館では、日常生活に関する調べものから、家庭では調べられないような専門的なものまで様々なニーズに対応する各種資料とそれらの情報を提供する図書館司書を配置し、レファレンスサービスを提供しました。

※中央図書館



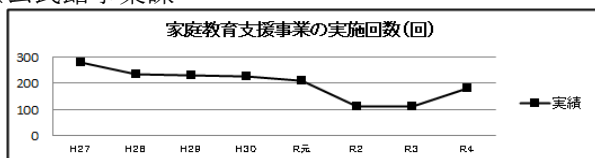
【基本施策 1-2 子育てをする家庭の教育力の充実】

主な取組 1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実

1 家庭教育に関する学習機会の充実

- ・社会教育課では、他市町村の事例発表や交流を通して家庭教育支援について学ぶ講座を、北海道教育委員会が主催する事業に合わせて実施したほか、保護者等が家庭教育について学ぶ活動に対して助言し、補助金を交付しました。
- ・公民館では、小学生の保護者向けにアンガーマネジメント講座の実施や、親子参加の講座など保護者が集まる機会に、子どもの頃における家庭や地域等での様々な体験活動の大切さなどの情報提供を行ったほか、子育てサロンでは、地域住民の協力の下、子育て相談や保護者同士の交流により、家庭教育について振り返る機会を提供しました。

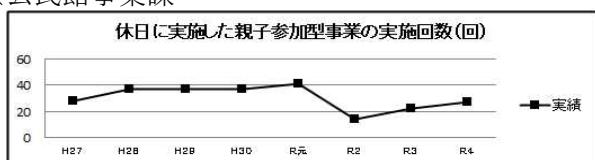
※公民館事業課



2 父親の家庭教育への参加を支援する取組の充実

- ・公民館では、親子参加型事業の一部を土曜日や日曜日に開催することで、父親も参加しやすい環境づくりを行いました。

※公民館事業課



主な取組 1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の整備

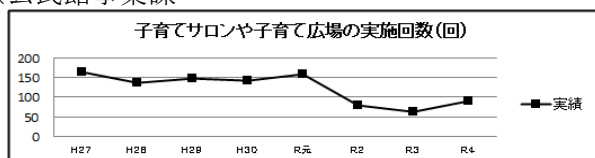
1 交流会やサークル情報等の提供

- ・社会教育課では、公民館で開催された親子陶芸教室に合わせて、体験活動の重要性や生活習慣、SNSの利用等家庭教育に関する情報を提供しました。
- ・公民館では、子育てに関する講座や育児サークルの情報を、インターネット等で提供しました。

2 子育て中の親や保護者のネットワークづくりの支援

- ・社会教育課では、北海道教育委員会が主催する家庭教育ナビゲーター養成講座を周知・運営し、新たに7人がナビゲーターに認定されました。
- ・公民館では、地域の民生委員児童委員連絡協議会等と連携して実施する子育てサロン等を通じて、保護者や妊婦からの子育て相談や保護者同士の交流の機会となるよう支援しています。

※公民館事業課



Ⅲ 課題と改善に向けた今後の方向性

令和4年度は、旭川市社会教育基本計画の「中間見直し」を実施し、事業の成果目標を明確にするとともに、事業の点検・評価方法について見直しを行いました。

利用者数や参加者数など行政の取組を見取る「活動指標」、事業の結果を通じて生じる人々の意識や行動の変化を見取る「成果指標」を設定し、令和5年度以降は、事業終了時に参加者アンケートを実施するほか、旭川市が隔年で実施している「旭川市民アンケート調査」や「市政モニター制度」を活用しながら、市民の意識や行動の変容を把握していくとともに、成果目標である「市民が人生の各段階で直面する課題や社会的な課題を解決できる」かどうかを視点に事業の在り方を検討します。

<1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進>

○ 社会教育課で実施した生涯学習フェアにおける来場者アンケートでは、異文化や資源・環境問題について学び続けたいと回答した来場者の割合は約95%と高く、引き続き、他部局と連携しながら、展示や体験、講座等様々な方法で社会的課題や参加者のニーズにあった学びを提供していきます。

ジオパーク構想推進事業の一環として実施した事業の参加者アンケートでは、題材とした地域資源について学ぶことができたという回答した参加者の割合は約90%でしたが、参加者が少ないものもあったため、ジオパーク関連事業の定着化とホームページやチラシ、SNS等を使った活発な周知活動を行います。

○ 公民館では、外国語や異文化の学習を通して国際理解を深め、国際交流に関心を持つきっかけとなるよう、関係機関のノウハウを活用し、講座を実施していきます。

資源・環境問題に関する講座は、ごみや自然等の身近な話題を通してSDGsや持続可能な社会づくりについて考えるきっかけとなるよう、内容を検討していきます。

ICT講座については、スマートフォン講座のニーズが高いことから、引き続き実施するとともに、使いだけでなく、詐欺等のトラブル防止も含めた学習機会の充実に努めていきます。

○ 科学館で実施するSDGsや自然関連の事業については、参加者の関心が高く、継続的に実施する必要があります。実施に当たっては、専門的な知識と実績を有する研究者や専門家の確保だけでなく、継続的な取組に向けた能力を持つ職員を配置していきます。また、参加受入人数に限りがあり、ニーズに対応できていないことから、外部協力や他部局との連携により実施回数や1回当たりの受入人数を増やすことを検討します。

ICTの利活用やデジタルデバイドの解消については、受講者のニーズが高く継続的な開催が求められています。レベルに応じた段階的な講座の開催が必要であり、指導者側にも一定のレベルが必要とされるため、人材を継続的に確保していくことを検討します。また、成人の初心者向け講座には、マンツーマンに近い対応が必要となる場合が多いことから、ボランティアとの協働により人材の安定的な確保を図ります。

<1-1-2 ライフステージに応じた学習機会の充実>

○ 社会教育課が実施した生涯学習フェアのクイズラリーは、子どもたちが楽しく学ぶことができた一方、じっくりと学ぶことができていなかったといった声があったため、クイズの数を減らし内容を子ども向け、成人向けに変えるなど、多様な世代が楽しみながらじっくりと学習できる仕組みを検討していきます。

地域学校協働活動では、引き続き、学校や地域と連携しながら、子どもが地域について学び、多様な体験ができるようコーディネートしていきます。

○ 公民館の事業では、参加者が少ないものもあることから、アンケート調査によるニーズ把握や、現代的な課題に対応できる講師の発掘等、ライフステージに合わせた幅広い住民の興味・関心に沿う講座内容を検討していきます。

また、特に高齢者学習では、今後も生きがい・つながりづくりや心身の健康維持を図れるよう、地域包括支援センター等の関係機関と連携し事業を実施していきます。

- 図書館の講座については、楽しく本に触れることを目的に実施しており、参加者からは楽しい、わかりやすいといった声が寄せられています。今後は、アンケートにより各世代の学びのニーズとその方法を調査し、社会的な課題や各世代における課題を解決するきっかけとなるような講座の実施を検討していきます。
- 彫刻美術館が実施する彫刻巡回展示では、希望する学校に偏りがあることから、優れた作品に身近に触れることができるという強みを周知し、より多くの学校で実施できるよう努めます。
また、彫刻教室については、様々な方法で彫刻の多様性に触れることができるよう、各世代のニーズにあった事業の在り方を検討していきます。

<1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実>

- 社会教育課で管理している生涯学習ポータルサイト「まなびネットあさひかわ」については、より多くの市民に活用してもらえよう、SNSを使った周知を行います。さらに、アクセス件数の増加による登録サークルの会員数などへの影響について、サイトのアクセス解析やデータ集計による分析、登録サークルへのアンケートにより検証を行います。
また、市や民間団体による学習会、体験会情報を掲載する「あさひかわ学びの応援講座」は、多くの団体に活用してもらうため、広報誌やSNS等様々な方法で周知します。
- 公民館では、インターネットや公民館だより等の多様な媒体で、公民館を拠点に様々な活動に取り組む団体・サークル情報を積極的に発信するとともに、公民館の利用者やその他の市民に団体・サークルの活動を紹介するなど、それぞれの学習ニーズに合った情報を提供していきます。
また、地域への協力を希望する団体の情報を、小中学校等へ提供しコーディネートしていくなど地域学校協働活動の拠点としての役割を果たしていきます。
- 図書館でのレファレンスサービスについては、限られた資料や人材を有効に活用しながらサービスをより充実させるため、担当職員の育成と配置、資料の充実と更新により、市民の主体的な学びを支えていきます。

<1-2-1 親や保護者の育ちを支援する取組の充実>

- 社会教育課では、保護者が子育てや家庭教育に関する情報に触れるきっかけとなるよう、生涯学習フェアをはじめ、多くの保護者と子どもが参加する催しで情報提供を行うほか、子育てや家庭教育に関する情報をまとめた「学びと育ちのわくわく通信」を発行します。
また、社会教育事業補助金については、PTAの会議等保護者が多く集まる機会でも周知するとともに、効果的な学習方法について助言していきます。
- 公民館では、保護者へのニーズ調査や家庭教育・子育てに役立つ学習機会の提供について検討していきます。
また、父親が参加しやすいよう、一部講座を土・日曜日に開催していますが、父親の参加が少ないことから、開催曜日だけでなく、父親が関心を持って参加できるような内容についてもニーズ調査や情報収集を行うとともに、参加を促すための広報を検討していきます。

<1-2-2 親や保護者を孤立させない環境の充実>

- 社会教育課では、保護者の孤立化を防止するためには、保護者が気軽に相談できる場や機会を提供することが重要であることから、北海道教育委員会主催の家庭教育ナビゲーター養成講座を実施して担い手を育成します。また、コロナにより実施できていなかった「学びカフェ」に、より多くのナビゲーターに参加してもらえよう働きかけます。
- 公民館の子育てサロンや子育て広場については、毎回多くの子育て中の保護者や妊婦が参加しており、参加者が互いに相談や交流ができる場となっていることから、今後も関係機関と連携し実施していきます。

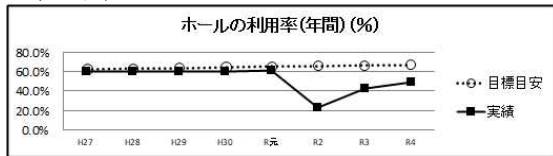
社会教育 基本目標 2 市民の学びを支える環境の整備

【成果目標 2】社会の変化や新たなニーズに応じた施設運営や本市の特性を生かした事業を展開するなど、市民が学習しやすい環境を整備する。

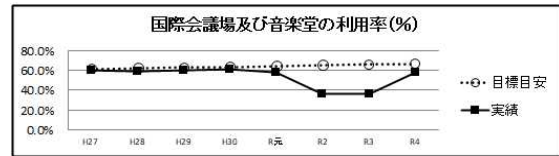
I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
社会教育施設（社会教育部所管）の利用率又は利用者数 ^{*1}	文化会館	67.0%	49.0%	未達成	↘
	クリスタルホール	66.5%	57.8%	未達成	↘
	彫刻美術館	10,968人	7,398人	未達成	↘
	公民館事業課	716,429人	432,487人	未達成	↘
	中央図書館	500,000人	365,347人	未達成	↘
	科学館	280,000人	244,541人	未達成	↘
	博物館	25,000人	26,056人	達成	—

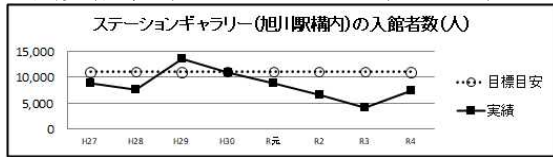
文化会館



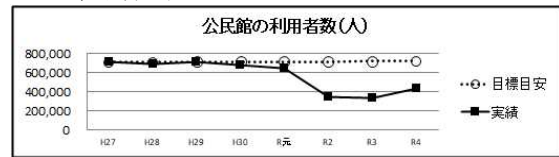
クリスタルホール



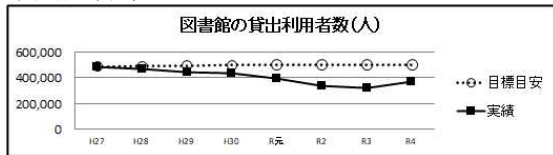
彫刻美術館（ステーションギャラリー）



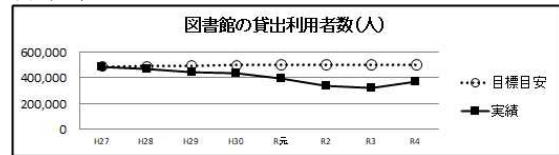
公民館事業課



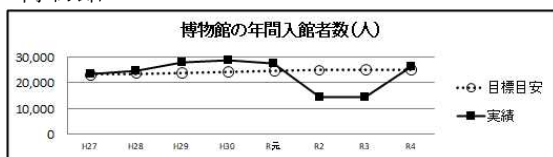
中央図書館



科学館



博物館



成果指標 2

成果指標 2		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
社会教育施設を利用しやすいと感じる市民の割合	公民館事業課	66.6%	62.0%	未達成	↘



*1 彫刻美術館は、計画策定時に本館休館中のため、ステーションギャラリーの入館者数

成果指標 3		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
地域の特色を生かした事業への参加者数	公民館事業課	338人	1,840人	達成	—
成果指標 4		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
高等教育機関等との連携による事業実施回数	社会教育課	6回	6回	達成	—
	公民館事業課	99回	66回	未達成	↘
	中央図書館	3回	4回	達成	—
社会教育課					
公民館事業課					
中央図書館					

II 取組の状況

【基本施策 2-1 施設運営や事業展開に工夫を凝らした学習しやすい環境の整備】

主な取組 2-1-1 市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備

1 市民の学習ニーズを反映した社会教育施設の運営

- ・文化会館や公会堂、クリスタルホールでは、施設運営に係る業務を民間に業務委託し、保守点検や施設の維持管理を行っています。また、自主文化事業を通して、文化芸術を鑑賞する機会を提供しています。
- ・彫刻美術館では、市民が身近に彫刻に接する機会を提供する場所として、本館と分館（ステーションギャラリー）の2館体制で事業を展開し、「彫刻のまち旭川」の魅力を発信しています。また、ステーションギャラリーでは、「織田コレクション」を展示するなど彫刻にとらわれない文化芸術の発信拠点としての運営も行いました。
- ・公民館では、利用者アンケートや地域住民と公民館の運営について協議する公民館フォーラムを通してニーズを把握しながら効果的な管理運営を行っています。また、一部の公民館では地域で組織する団体の指定管理者制度による運営を行っています。
- ・図書館では、市民の様々な生活スタイルに対応するため、土・日曜日、祝日、夜間開館等を実施し、利用しやすい施設となるよう工夫しています。
- ・科学館では、自然科学を学ぶという市民ニーズに対応するため、各年代に応じた自然科学やものづくり等に関する事業を実施しています。また、令和4年度は、特別展「恐竜ワールド」を実施し、恐竜の生態等について紹介しました。
- ・博物館では、アイヌと地域の歴史や文化、自然についてより深く学べるよう、常設展示のほか、アンケートにより市民の学習ニーズを把握しながら、年3回の企画展やアイヌ文化に親しむ日、各種郷土学習講座、団体向け体験学習を実施しました。

2 誰もが利用しやすい社会教育施設の整備

- ・文化会館では空調設備やホール内の足元灯の改修，公会堂ではワイヤレスマイクの更新，クリスタルホールでは音楽堂映像設備の更新やグランドピアノの弦の交換・調律等を行いました。
- ・公民館では，団体利用だけでなく，地域住民が気軽に利用・交流できる場として，卓球・囲碁・ミニテニス等の施設開放事業を実施しています。また，一部の館では，地域と連携して小中学生向けの自習スペースとして開放しています。

3 社会教育施設の拠点機能の充実

- ・文化振興課では，NPO法人への委託により文学資料館を運営し，旭川ゆかりの文学資料の散逸を防ぐとともに，市民の文学活動を支援しました。

主な取組 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備

1 高等教育機関等との連携による高度な学習機会の提供

- ・社会教育課では，市内の高等教育機関の連携機関である旭川ウェルビーイング・コンソーシアムとの共催で「あさひかわオープンカレッジ」を引き続き実施し，市民に大学の教授等から健康や哲学，言語など様々な分野を学ぶ機会を提供しました。
- ・公民館では，市内大学や高等専門学校等の協力の下，各機関の持つ高い専門性を生かした科学や健康維持等に関する講座を実施しました。
- ・図書館では，SDGs や鳥獣害，秋野菜，男女共同参画，英語等専門家による様々な分野の講座を関連図書の紹介を交えて実施しました。

2 社会教育関係団体等との連携による特性を生かした学習機会の提供

- ・社会教育課では，「あさひかわ学びの応援講座」を発行し，市内の社会教育団体が実施する子育てや自然環境，趣味等様々な分野の講座を紹介しています。
- ・公民館では，社会福祉協議会やNPO法人，生涯学習団体等様々な分野の団体と共催又は連携し，ボランティア養成や自然環境，文化芸術など，各団体が持つノウハウを生かした多様な講座を実施しました。
- ・図書館では，JICAと連携して講演会やパネル展示を実施したほか，有識者による男女共同参画についての講演会を実施しました。

3 市長部局との積極的な連携による学習機会の提供

- ・社会教育課では，市の各部局と連携し，市職員や関係団体の職員等を講師として派遣する出前講座の情報を「あさひかわ学びの応援講座」としてホームページで公開しているほか，情報をまとめた冊子を支所や市有施設に設置し，多様な学習機会を提供しています。
- ・公民館では，市の各部局との共催や講師派遣を活用し，行政機関のノウハウを生かした農業・環境等多岐にわたる分野の学習機会を提供しました。

Ⅲ 課題と改善に向けた今後の方向性

市民の主体的な学びを支援するため、既存の社会教育施設が地域の学習・活動の拠点となるよう市民ニーズを把握しながら整備を進めるとともに、多くの高等教育機関が設置されているなど本市の特性を生かした学習環境の整備に努めます。

< 2-1-1 社会の変化や市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備 >

- 各社会教育施設では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため様々な対策を行ってきましたが、今後も安心安全に利用できるよう、状況に応じた施設の運営形態や利用方法を検討していきます。
- 文化会館については、築48年が経過し、建物や設備の老朽化が進んでいることから、建て替えとして整備の方向性を定めたところであり、今後、具体的な検討を進めていきます。
クリスタルホール及び公会堂については、施設の老朽化が課題であることから、建物や設備の保守管理等を適切に行うとともに、施設利用に支障が生じないよう必要な改修・修繕を実施し、市民が利用しやすい環境整備に努めていきます。
- 彫刻美術館では、より一層市民に興味を持ってもらうため、本館・ステーションギャラリーでの連動した企画展や外部機関との連携、ギャラリートーク、ワークショップ等を開催し、「彫刻のまち旭川」の情報発信の場としての機能強化を図っていきます。
- 公民館では、利用者アンケート等で住民の学習ニーズを把握し、その状況に合わせた学習環境の整備を行うよう努めていきます。また、老朽化が進んでいる施設もあることから、改修や修繕等を計画的に行えるよう検討していきます。
- 図書館では、図書資料と連携した日常生活に役立つ様々な講座の開催などの市民ニーズに対応するため、人材や資料等限られた資源の適切かつ効果的な配置を検討していきます。
- 科学館では、より多くの利用者が安全安心に利用できる空間を維持しつつ、子どもから大人まで誰もが楽しみながら科学についての情報・知識を得られる施設及び事業運営を継続するとともに、利用者増加に向けて常に新しいチャレンジを続けます。
- 博物館では、アイヌや地域の歴史や文化を学ぶ場として、より多くの方に活用してもらえよう、わかりやすい展示や体験学習、企画展等の内容の充実に努めるとともに、各種事業の効果的な情報発信に取り組みます。
- 文化振興課では、NPO法人による文学資料の収集とデータベース化を推進し、それらを基にした企画展の開催によって市民に学びを提供するため、文学資料館の一層の周知と関係機関との更なる協力体制の構築に努めます。
- これらの各社会教育施設やその他の関係施設が相互に連携し、市民が各施設を巡回することにつながるような仕組みの定着を進めます。

< 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備 >

- 社会教育課が高等教育機関と連携して行う講座では、もっと学んでみたいといったアンケート結果がある一方、参加者が高齢化・固定化していることから、広報誌やSNS等を活用し、幅広く市民に周知を行います。
「あさひかわ学びの応援講座」では、多くの市民が身近な課題に関する学習機会を得ることができるよう、社会教育団体や市長部局との連携を強め、提供講座の拡充に努めます。また、他部局で提供している学習情報の統一化を検討します。
- 公民館では、高等教育機関や社会教育関係団体など、高い専門性や各団体が持つ幅広い分野でのノウハウを生かした多様な講座を継続して実施していきます。
- 図書館の講座では、男女共同参画やJICAの活動について初めて知り考えるきっかけとなった、視野が広がったなどの感想が寄せられ、市民に学びの機会を提供することができました。今後も、参加者の多様な学びにつながるよう、さらに視野を広げ、新たな連携を模索していきます。

社会教育 基本目標 3 地域における学びの循環

【成果目標 3】シニア世代をはじめとした地域の人材を活用し、学習成果を還元する取組を充実させるほか、家庭、地域、学校が連携し、つながりを深めながら学び合える環境を整備する。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較	
ボランティアと連携して実施する事業*1	公民館事業課	426回	546回	達成	—	
	中央図書館	1,677人	860人	未達成	↔	
	博物館	5回	1回	未達成	➡	
<p>公民館事業課</p> <p>ボランティア等との連携で実施する事業回数(回)</p> <p>中央図書館</p> <p>子ども読書推進ボランティアの行事参加者数(人)</p>						
<p>博物館</p> <p>退職校長会ボランティアとの連携で実施する事業回数(回)</p>						
成果指標 2		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較	
事業への参加を通じて新たな人とのつながりができた人の割合		公民館事業課	72.5%	50.7%	未達成	➡
<p>事業参加者へのアンケート調査の結果 (事業を通じて新たな人とのつながりができた) (%)</p>						
成果指標 3		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較	
シニア世代の知識や経験を伝える世代間交流の実施回数		公民館事業課	28回	0回	未達成	➡
<p>高齢者が参加する世代間交流事業の実施回数(回)</p>						
成果指標 4		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較	
学校、地域、家庭と連携して実施した事業の参加者数	社会教育課	1,600回	—	未達成	➡	
	公民館事業課	21,272人	4,886人	未達成	↔	
<p>社会教育課*2</p> <p>地域学校交流活動回数(回)</p> <p>公民館事業課</p> <p>家庭教育支援事業及び青少年教育事業への参加者数(人)</p>						

*1 中央図書館は、ボランティアの行事参加者数

*2 R 2～4は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から利用中止

成果指標 5		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
青少年活動に関する事業への参加者数	公民館事業課	13,014人	2,660人	未達成	▲

青少年教育事業への参加者数(人)

年度	目標目安	実績
H27	13,014	10,000
H28	13,014	10,000
H29	13,014	10,000
H30	13,014	10,000
R元	13,014	10,000
R2	13,014	5,000
R3	13,014	2,660
R4	13,014	2,660

II 取組の状況

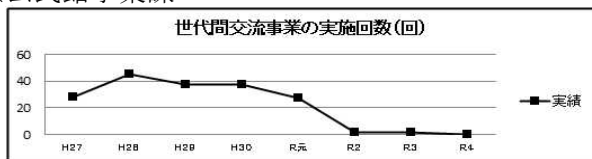
【基本施策 3-1 地域における教育力の向上】

主な取組 3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備

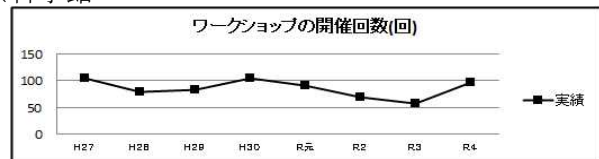
1 シニア世代などの知識・技術を生かした活動の場の提供

- ・社会教育課では、「あさひかわ学びの応援講座」や「まなびネットあさひかわ」において、民間の講師や生涯学習団体等が主催する様々な講座や催し、学習情報を提供しました。生涯学習フェアは、フェアに参加する団体が主体的に企画や周知、当日の運営を行うことを目標に開催しました。17団体が4回の会議を通して、フェアの内容を企画し、各団体が自作したポスターやSNSによる周知、当日の運営のほか、学びの成果発表や展示、体験会を実施しました。また、地域学校協働活動においては、中学校の体育祭や学校祭で、消毒・検温の呼びかけやバザー商品の受け渡しなど、地域の方がボランティアとして活動する機会をコーディネートしました。
- ・文化振興課では、井上靖の文学を学びながら井上靖記念館の事業を支援する「井上靖ナナカマドの会」と協働で青少年エッセーコンクールを実施しました。また、会員が講師となって朗読会を実施しました。
- ・公民館では、社会福祉協議会や実践者を講師に、ボランティアに係る講座を行い、これまでの経験等を生かしていくことについての情報提供、機会創出を図っています。
- ・図書館では、読み聞かせや図書の宅配サービス等において、登録されている様々なボランティアに支援していただくとともに、活動の場を提供しています。
- ・科学館では、ボランティア団体「サイエンスボランティア旭川」に、常設展示室での案内や講座での指導等の活動の場を提供したほか、活動に必要な物品を貸し出しています。
- ・彫刻美術館では、授業の一環として中学生が屋外彫刻を清掃する活動を支援しました。

※公民館事業課



※科学館



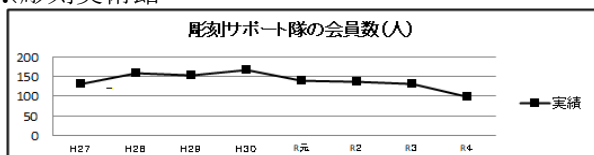
2 学習成果を生かしたボランティア活動の促進

- ・社会教育課では、地域学校協働活動として、小学校のクラブ活動の講師を地域住民に依頼し、自然観察や絵手紙の作成、マジック等地域住民の知識や技術を児童に伝える機会や、中学校での職業講話として地域にある企業の方が仕事の内容や、やりがいなどを生徒に伝える機会をコーディネートしました。
- ・文化振興課では、井上靖ナナカマドの会が講師として実施する朗読会への協力や研修会の開催を通して、活動を支援しました。
- ・クリスタルホールで開催される演奏会では、応募があった市民等で構成されるコンサートボランティアが行うチケットもぎりや座席案内等の活動を支援しました。
- ・彫刻美術館では、野外彫刻の定期的な清掃活動やワックス塗付等の維持管理のほか、市内にある

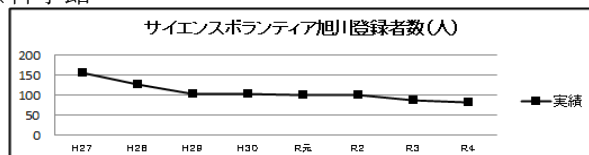
野外彫刻と設置場所などを紹介する「旭川野外彫刻たんさくマップ」を作成している「旭川彫刻サポート隊」に研修会を開催するなど、活動を支援しています。

- ・公民館の百寿大学やシニア大学では、彫刻清掃のボランティアに参加する機会を設けています。
- ・図書館では、催しでの読み聞かせや目の不自由な方への音訳等の活動に取り組むボランティア団体に研修会を開催し、活動を支援しました。
- ・科学館では、「サイエンスボランティア旭川」がワークショップや「学生の科学展」等のイベントを開催しており、科学のおもしろさや学ぶ楽しさを伝える活動を支援しています。
- ・博物館では、退職校長会旭川支部の有志で構成される博物館ボランティアと連携し、資料の整理や調査を実施しました。また、「アイヌ文化に親しむ日」では、ボランティアが体験学習を実施しました。

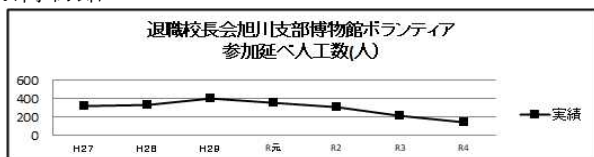
※彫刻美術館



※科学館



※博物館



主な取組 3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援

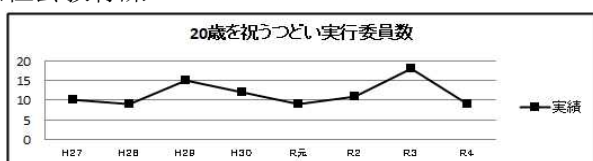
1 社会教育関係団体の育成支援

- ・PTA連合会が行う各種活動に補助金を交付したほか、自然体験を行う団体や家庭教育について学ぶ団体、演劇や楽器の演奏等を行う文化芸術団体に社会教育・文化芸術事業補助金を交付し、活動を支援しました。
- ・公民館では、事業の講師を生涯学習活動団体が担うなど、生涯学習団体が資質や技術を向上させる機会を提供しました。

2 指導者の育成支援に向けた取組の充実

- ・社会教育課では、20歳を迎える若人の門出を祝うとともに、今後社会で力強く生きていくよう激励する「20歳を祝うつどい」を、つどいの対象者を中心とした実行委員会との共催により開催しています。令和4年度は、前年度の実行委員がオブザーバーとして参加するなど、9名の実行委員の活動を支援しました。
ジオパーク構想推進事業の一環として実施した事業では、大学生や地域住民がボランティアとして事業の運営を行う機会を提供しました。
- ・公民館のシニア大学では、学生が地域課題について研究した成果を、各百寿大学で講師として発表する機会を設け、学んだ成果を生かす場を提供しました。

※社会教育課



【基本施策 3-2 家庭，地域，学校の連携の推進】

主な取組 3-2-1 学校，家庭，地域の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実

1 地域における青少年の学習活動の充実

- ・社会教育課では，モデル地域における地域学校協働活動として，中学生が道路の草取りや除雪等地域の担い手として困りごとを解決したり，小学生がクラブ活動で自然観察をしたり，車椅子の方とポッチャをするなど，子どもたちが多様な体験をする機会をコーディネートしました。
- ・公民館では，地域の特色を生かした自然スポットの散策や農業体験等，様々な知識や経験を身に付けるための講座を実施しました。

2 子どもたちを中心とした交流による学び合いの場の提供

- ・社会教育課では，モデル地域における地域学校協働活動として，中学校の生徒会役員と部活動の生徒が地域住民や地域にある社会福祉施設の方と一緒に花壇整備を行ったり，小学生が放課後に学習を行う放課後学習会で，大学生から勉強を教えてもらったりする機会をコーディネートしました。
- ・公民館が実施した昆虫採集等の体験活動では，グループでの活動を通して，教え合いや交流が生まれ，子どもたち同士で学び合っている様子が見られました。

3 家庭，地域，学校との連携を更に深める取組の充実

- ・社会教育課では，地域学校協働活動として，モデル地域の3地区にコーディネーターを配置し，協働活動を推進するとともに，地域住民への理解を深めるためのワークショップを実施しました。
- ・公民館では，地域住民や大学生，関係団体と共催・連携・協力し，子育てサロンや小・中学生への学習支援を実施するなど，地域で行われる子どもたちへの取組を支援しています。

Ⅲ 課題と改善に向けた今後の方向性

地域社会の人間関係の希薄化や人々の孤立化が指摘されている中で、地域課題の解決や地域の活性化などを促進するためには、「地域住民が学習を通じて市民意識を高め、必要な知識・技術等を身につけ、その成果を社会参画や社会貢献の活動につなげていけるようにするための実践的な学習機会の提供が重要となる」と中教審分科会議論の整理で示されています。

本市としては、一人一人が学んだ成果を、そこで完結させることなく活用し、さらに、家庭・地域・学校などの中で循環させるための環境整備に努めます。

<3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備>

- 社会教育課で実施した生涯学習フェアの参加団体アンケートでは、学んだことを地域に生かそうと考えていると答えた団体は80%と高く、学びの成果を地域に生かそうとする市民の意識の向上につながったと考えています。今後は、各団体に役割を持たせるなど、さらなる意識の向上を図ります。

地域学校協働活動では、今後は、地域住民が学校や子どもたちに提供できる活動や場などの地域資源をリスト化し、協働活動のさらなる推進を目指します。また、「あさひかわ学びの応援講座」や「まなびネットあさひかわ」には、サークル活動を行う団体や学びを提供できる講師の情報をより多く掲載できるよう、広報誌やSNSを活用して周知を行います。

- 各施設におけるボランティア活動については、登録人数が横ばい又は減少傾向にあることから、各ボランティアの活動を支援するために、その活動内容や特色を多くの市民に知ってもらう取組を行い、活動に参加する市民を増やしていく必要があります。このため、各ボランティアの活動を各講座や公民館の百寿大学、シニア大学の参加者に周知・啓発して参加につなげるなど、社会教育部内でも連携を図っていきます。

さらに、今後は他の施設でもアンケートを実施するなどして成果を計るとともに、ボランティアの活動を単なる施設の運営支援ではなく、知識・経験・学習成果を発揮する場として捉え、取組を進めていきます。

<3-1-2 地域社会を担う団体や人材の育成支援>

- 社会教育課及び文化振興課では、社会教育・文化芸術活動を行う団体に対し、補助金を交付し、引き続きその活動を支援していきます。
- 社会教育課では、引き続き、20歳を祝うつどい実行委員の担い手として、大学生や様々な業種の社会人等幅広い人材を確保し、その活動を支援していきます。また、ジオパーク構想推進事業の一環として実施する事業では、ボランティアが補助的な役割だけでなく、知識や経験を活かせる機会となるよう、ボランティアとの交流や意見交換を行います。
- 公民館のシニア大学は、まちづくりを担う人材づくりを目的としていることから、アンケート等でこれまで把握していなかった卒業後の状況を調査することにより、カリキュラムの見直しを図っていきます。

<3-2-1 家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実>

- 社会教育課では、地域学校協働活動について、モデル地域における実践を続けるとともに、住民の地域や学校の活動に主体的に参画する意識の醸成を図り、学校を核とした地域づくりを進めていきます。
- 公民館では、地域のニーズを把握できるよう、関係団体や学校との連携を密にし、それぞれが連携して行う子どもたちのための活動の支援を行っていきます。

社会教育

基本目標 4 市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実

【成果目標 4】人々が気軽に文化芸術に触れられる取組を進めるとともに、団体等への支援や関連施設を更に活用することにより、文化芸術の振興を図る。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
文化芸術に関する事業の入場者数	文化会館	3,185人	2,897人	未達成	◇
	クリスタルホール	3,285人	1,574人	未達成	◇
	公民館事業課	20,113人	16,578人	未達成	◇
	中央図書館	1,706人	409人	未達成	◇
<p>文化会館</p> <p>文化会館自主文化事業への参加者数(人)</p>		<p>クリスタルホール</p> <p>クリスタルホール自主文化事業の入場者数(人)</p>			
<p>公民館事業課</p> <p>公民館まつり、木楽輪夢コンサートの参加者数 及び木楽輪グランドピアノ開放利用者数(人)</p>		<p>中央図書館</p> <p>図書館まつりの参加者数(人)</p>			
成果指標 2		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
自主文化事業への参加者の満足度	文化会館	94.6%	98.0%	達成	—
	クリスタルホール	87.5%	88.9%	達成	—
<p>文化会館*1</p> <p>自主文化事業参加者へのアンケート調査の結果 (とても良かった・良かった)(%)</p>		<p>クリスタルホール</p> <p>自主文化事業参加者へのアンケート調査の結果 (とても良かった)(%)</p>			
成果指標 3		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
文化芸術活動に係る補助金の新規交付団体数	文化振興課	4団体	4団体	達成	—
<p>文化芸術活動に係る補助金の新規交付団体数(団体)</p>					

*1 R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からアンケート調査未実施

成果指標 4		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
文化芸術活動に係る成果発表の場を活用する団体数 ^{*1}	クリスタルホール	7団体	10団体	達成	—

年度	目標目安	実績
H27	7	7
H28	7	10
H29	7	10
H30	7	7
R元	7	10
R2	7	7
R3	7	7
R4	7	10

II 取組の状況

【基本施策 4-1 文化芸術活動に関わりを持つ機会の充実と独自性ある取組の充実】

主な取組 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実

1 文化芸術に接する機会の充実

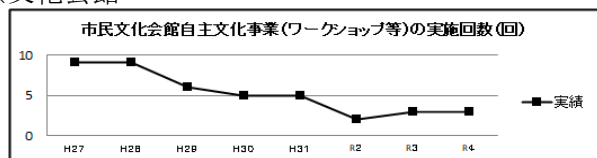
- 文化振興課では、井上作品や文学碑などを通して、井上靖について学ぶ企画展を井上靖記念館で開催したほか、市民ギャラリーで開催する絵画展や写真展、作品展等市民が取り組む文化芸術活動を周知し、より多くの市民が文化芸術に親しむ機会を提供しました。また、ステーションギャラリーでは、世界的に優れた織田コレクションや、家具の展覧会を実施し、市民が無料で気軽に優れた作品を鑑賞できる機会を設けるとともに、周知を行いました。
- 文化会館では、市民に優れた文化芸術作品を鑑賞する機会を提供するため、狂言や日本を代表するラテンジャズバンドの公演等を実施しました。また、市民等が取り組む絵画や写真、書道などの発表機会として、展示室を提供しています。
- クリスタルホールでは、市民の音楽への理解と関心を高めるとともに、子どもたちに音楽鑑賞等の機会を提供することで豊かな心を育むため、尺八とマリンバによるコンサートや子ども向けのコンサートなどを実施しました。
- 彫刻美術館では、本館とステーションギャラリーにおいて、木彫や金属彫刻、建築、版画等様々な企画展を実施したほか、中原悌二郎賞創設50周年記念講演会を市制施行100年に合わせて開催し、賞の周知と本市の芸術文化の振興に資する人材の育成を図りました。また、これまで公開制作に参加した14名の作家の作品を一堂に展示する旭川彫刻フェスタ20周年記念展を開催するとともに、6名の作家によるギャラリートークを実施しました。
- 図書館では、図書館まつりを3日間にわたって開催し、絵本の読み聞かせや市内の団体による寄席等を開催しました。

2 文化芸術への関心を高める取組の充実

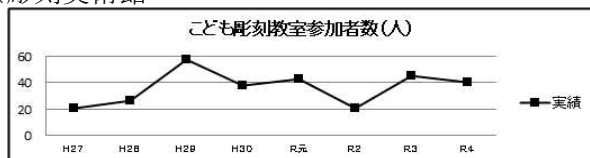
- 井上靖記念館では、井上文学をはじめとする様々な文学作品への関心を高めるため、井上作品をテーマとした企画展や朗読会等を実施しました。
- 文化会館の自主文化事業では、地域で鑑賞する機会の少ない古典芸能・狂言を実施したほか、クリスタルホールでは、自主文化事業の選定をアンケートにより実施し、市民の関心を高めました。
- 彫刻美術館では、彫刻についての理解を深め美術全般への関心を高める機会とするため、講師の意見等を聞きながら、彫刻教室や彫刻フェスタなどを実施しました。
- 公民館では、館内ロビーに生涯学習活動団体の書道や近隣保育園の作品などを展示したほか、吹奏楽団体の演奏会を行うなど、地域住民が気軽に文化芸術に接する機会を設けました。

*1 R元は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

※文化会館



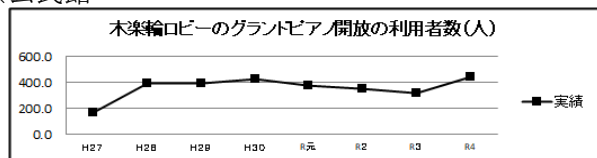
※彫刻美術館



3 関連施設の機能を生かした文化芸術活動の推進

- ・文学資料館では、知名度の高い文学者や日本漫画家協会賞を受賞した旭川ゆかりの漫画家を紹介する展示等を行いました。
- ・彫刻美術館のステーションギャラリーでは、JR旭川駅構内にあるという立地を生かして、織田コレクションの展示を開催するなど、彫刻にとらわれない文化芸術の発信拠点として活用しました。また、本館とステーションギャラリーで連動した企画展やギャラリートーク等を開催しました。
- ・神楽公民館の音楽ホール「木楽輪」では、市民によるクラシックなどのコンサートが開催され、聴衆人数を合わせると、利用者は延べ1万6千人を超えており、非常に多くの人に利用される施設となっています。他の公民館にはない音楽ホールの活用により、市民がより身近に芸術に触れる機会を提供しています。

※公民館

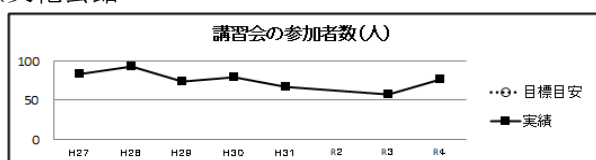


主な取組 4-1-2 文化芸術活動への支援

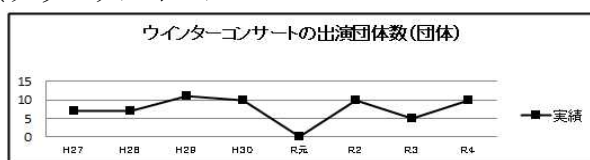
1 文化芸術に関わる団体への支援や人材の育成

- ・文化振興課では、文化芸術活動に携わる団体や個人が練習場所として使用するリハーサルホールの自主運営組織に、効果的な学びの環境が提供されるよう補助を行っています。また、文化芸術に関わる団体がその成果を発表する市民ギャラリーを運営し、令和4年度は29団体が利用しました。このほか、文化芸術関係団体が実施する発表会や演奏会、展覧会等の事業に必要な経費の一部を補助し、市民の自主的な文化芸術活動が行われるよう支援しました。
- ・文化会館では、高校生のための演劇技術講習会とワークショップを開催し、実践的な演劇の技術等を学ぶ機会を提供したほか、39歳以下の作家を対象に様々なジャンルの作品を公募する展示会「ACAG」を開催しました。
- ・クリスタルホールでは、「ウインターコンサート」を開催し、市内の演奏家に発表の機会を提供したほか、小中学生を対象に音楽堂のグランドピアノの無料開放、小学生を対象に音楽堂周辺の見学や身近な楽器の仕組みを学ぶ講座を実施しました。

※文化会館



※クリスタルホール



2 関係団体等と連携した文化芸術活動の推進

- ・公民館では、生涯学習活動団体と連携し企画・運営される「公民館まつり」等のイベント開催や、館内ロビー等での作品展示の機会を設け、地域での発表機会充実により、団体の活動を支援しています。

III 課題と改善に向けた今後の方向性

旭川市は、彫刻のまち、文学のまち、音楽のまち等と称されるなど、文化芸術活動が盛んなまちであり、様々な文化イベント等を行っています。

文化芸術は、人々の創造性を高め、感性を豊かにし、暮らしに潤いと安らぎをもたらすとともに、人々に感動と生きる力を与えるものです。関連施設の活用を図りながら、本市の特徴を生かした文化の振興を通じて、市民一人一人が主体的に文化芸術に接することができ、心豊かな生活を送ることができるよう、文化芸術活動の充実を図ります。

<4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実>

○ 井上靖記念館では、様々な企画展や講座の開催を継続し、市民への周知に加えて、学校教育や社会教育関係者等への啓発的活動を検討します。

市民ギャラリーでは、利用件数や来館者数が増加を続けており、引き続き、利用方法や展示内容の周知等に努めます。

ステーションギャラリーでの織田コレクションの展示については、駅中でアートに触れることができるのはすばらしいなどの声が寄せられており、より多くの市民や観光客に親しまれるよう、事業の周知方法を工夫します。

○ 文化会館で実施した自主文化事業については、アンケート回答者の約98%が高い満足度を示していますが、来場者数の増加は収支向上を図る上でも必要なことから、今後も魅力ある公演事業の実施に取り組むとともに、補助金等の財源確保や公演事業の誘致により、市民の鑑賞機会の創出に取り組みます。

○ クリスタルホールの自主文化事業についても、アンケート回答者の約89%から高い満足度を得られていますが、旭川でしか聴けないようなコンサートを企画してほしいなどの声もあるため、今後もアンケート等でニーズを把握しながら企画するほか、SNSの活用や紙媒体とインターネットを連携させた情報発信を行うなど、工夫を凝らした広報手法について検討します。

○ 公民館では、今後も館内での展示・発表を行える環境づくりを継続し、多彩なジャンルの文化芸術に気軽に触れることができる機会の充実を図ります。

特に、木楽輪での「夢コンサート」は、例年、出演希望者・観覧者ともに多いことから、夢コンサート及びグランドピアノの開放を継続実施し、アマチュア演奏家の活動の場と市民が気軽に音楽や文化・芸術に触れることができる環境を引き続き提供していきます。

○ 彫刻美術館が実施する中原悌二郎賞においては、中原悌二郎賞関係者から作品購入だけでなく、ワークショップやシンポジウム等を開催し、作家とのつながりを継続させるべきとの声があり、今後も講師や関係機関等と連携しながら、より魅力のある事業を検討します。また、若手作家の作品を発表する場を提供して欲しいなどの声があることから、彫刻フェスタや本館・ステーションギャラリーでの展示についても内容を検討するとともに、多くの市民に参加してもらえよう、効果的な広報を行なっていきます。

○ 図書館で実施する図書館まつりについては、事前申込や分散、少人数等の受講により安全に楽しく開催できる環境のもとで実施することとし、アンケートを実施して、市民の学習ニーズを調査しながら、文化芸術に親しむ機会の充実に努めていきます。

<4-1-2 文化芸術活動への支援>

○ 市民ギャラリーについては、利用件数及び利用率ともに年々増加していますが、冬期間は利用に余裕が残されており、さらなる利用促進に向け、展示空間としての施設の魅力を周知します。

社会教育・文化芸術事業補助金については、特定の団体等に偏ることなく、様々なジャンルの文化芸術活動を行う団体や新たに文化芸術活動に取り組む団体等に対しても、補助が行えるよう制度の周知に努めます。

○ 文化会館が実施する演劇技術講習会については、ホール設備を活用し、技術者から直接、実践的な演劇技術を学ぶ機会であるため、引き続き実施していきます。

A C A Gについては、若い世代から文化芸術活動への興味や関心を高める取組の充実が必要で

あることから、事業内容を検討し、引き続き、若手作家が日頃の活動成果を発表する機会の創出に取り組みます。

- クリスタルホールでは、若い世代へのアプローチを課題と捉え、引き続き、音楽への興味や関心を高める事業の検討を行うほか、子ども向けの企画事業については学校と連携して周知するなど、効果的な広報活動に努めます。
- 公民館では、公民館まつりなどで生涯学習活動団体の活動発表の場や団体間の連携の機会を提供していますが、団体構成員の高齢化が進んでおり、より多くの団体に主体的に関わってもらうこと、また活動成果を地域還元することでやりがいを感じてもらうための仕組みづくりを検討していく必要があります。

社会教育 基本目標 5 郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成

【成果目標 5】アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化、ゆかりの文化財等の魅力を発信しながら、次代へ引き継ぐとともに、郷土愛を育む。

I 成果指標の状況

成果指標 1		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
郷土の文化や歴史に関する保存資料数	中央図書館	75,200点	73,074点	未達成	◇
	博物館	2,484点	2,735点	達成	—
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>中央図書館</p> <p>中央図書館郷土資料の所蔵点数(点)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>博物館</p> <p>民族資料整理に伴い出版する目録への掲載点数(点)</p> </div> </div>					
成果指標 2		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
郷土の文化を知る取組への参加者数	彫刻美術館	1,297人	446人	未達成	◆
	博物館	1,622人	575人	未達成	◆
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>彫刻美術館^{*1}</p> <p>彫刻巡回展示出前授業参加児童生徒数(人)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>博物館</p> <p>博物館講座等教育普及事業 (企画展・アイヌ文化関連事業を除く)の参加者数(人)</p> </div> </div>					
成果指標 3		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
アイヌ文化に関する事業への参加者数 ^{*2}	博物館	3,048人	790人	未達成	◆
<p>アイヌ文化ふれあいまつり及びアイヌ文化に親しむ日の参加者数(人)</p>					
成果指標 4		目標値 (R4)	実績値 (R4)	達成状況	R3実績値との比較
アイヌ文化をはじめ地域に根付いた文化に関する講座等への参加者の満足度	博物館	81.1%	87.8%	達成	—
<p>教育普及事業参加者に対するアンケート調査の結果 (満足・まあまあ良いの割合)(%)</p>					

*1 R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止したため、R元実績値との比較。

*2 H29は台風、R2～4は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からアイヌ文化ふれあいまつりが中止となったため、アイヌ文化に親しむ日のみの参加者数

【基本施策5-1 郷土の文化の保存・活用と郷土愛の育成】

主な取組5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用

1 文化財等の適切な保存と継承

- ・アイヌ伝統文化の継承と普及啓発のため、没後100年の節目に合わせて、知里幸恵の業績を振り返る催しの開催やタペストリー製作を補助して資料室の展示内容を充実させたほか、アイヌ団体と協議を重ね、団体の自主的な活動への支援や施設整備を行いました。
- ・優佳良織については、その技術を伝承し後世へ継承するため、優佳良織技術者の育成活動への助成を行い、2名が伝統的な「織り」と「染め」の技術を習得しました。
- ・その他の文化財についても、適正に維持管理を行い、保存に努めました。

2 貴重な文化財等を活用した郷土の歴史を後世に伝える取組の推進

- ・文化振興課では、アイヌ文化伝承の拠点となるアイヌ記念館の新館整備に補助金を交付しました。
- ・博物館では、市内で発掘した縄文遺跡などの地域の歴史に関する資料を常設展示や企画展で展示したほか、講演会や体験学習を実施しました。また、アイヌ文化に関する講座や、古式舞踊、民族楽器ムックルを披露する音楽会を小中学校向けに実施したほか、アイヌ語地名表示板を紹介するバスツアーを実施しました。

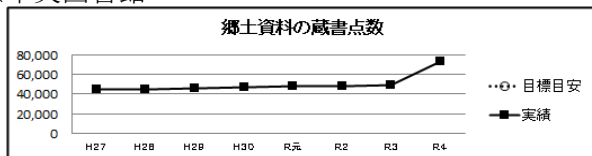
※博物館



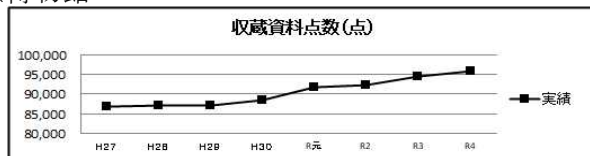
3 歴史的資料の収集・保存と整理

- ・文化振興課では、アイヌ記念館の新館建設を支援することで、アイヌ関連資料の保存・展示とアイヌの伝統芸能に日常的に接することのできる環境の整備を行いました。
- ・図書館では、郷土に関する日常的な情報から研究レベルに至るまで、幅広いニーズに対応しており、利用者が知りたい内容に対応できるよう郷土資料の収集整理を随時実施しました。こうした資料は、日光や紫外線、湿気から守るため閉架所蔵にしています。
- ・博物館では、地域の歴史や文化に関する資料を収集し、温度・湿度を管理した展示ケースでの展示や収蔵庫での管理を行いました。

※中央図書館



※博物館



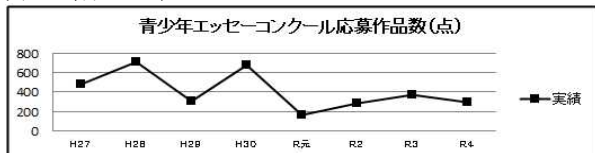
主な取組5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進

1 郷土の文化に接する機会や、郷土を再発見し愛着や誇りを高める取組の充実

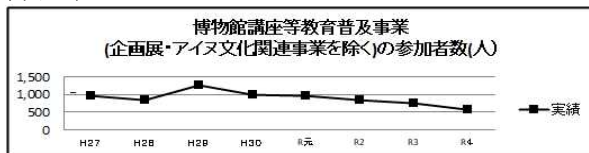
- ・社会教育課では、ジオパーク構想推進事業の一環として、神居古潭や忠和地区に残るアイヌの伝承に触れる講座やツアーを実施しました。
- ・文化振興課では、本市の文化の向上発展のため、永年にわたり輝かしい業績をあげた個人や団体に文化賞を贈呈しており、令和4年度に受賞した、野外彫刻を管理しているボランティア団体や写真家、市内高校の理科研究部の活動を本市のホームページ等で紹介しています。また、「美」を

- テーマに実施した青少年エッセーコンクールでは、中高生から294点の応募がありました。
- 彫刻美術館の旧旭川偕行社資料室では、棟札や鬼瓦等を展示し、重要文化財としての魅力を紹介しています。
 - 公民館では、自然体験やアイヌ文化、三浦綾子等の旭川ゆかりの講座を実施し、地域への関心を高める取組を進めています。
 - 博物館では、市内の遺跡の発掘調査成果や暮らしの移り変わり、アイヌ文化に関する企画展のほか、地域の歴史に関する講演会や土器焼き体験、民間博物館との連携による学校向け特別講座を実施しました。

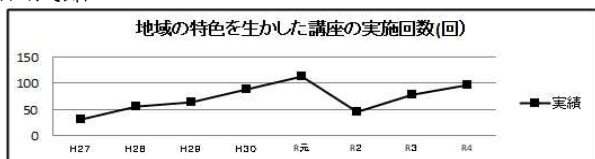
※井上靖記念館



※博物館



※公民館



2 郷土の文化に関する情報発信の充実と理解の促進

- 社会教育課では、ジオパーク構想推進事業の一環として、地域の価値を再認識してもらえるよう、ツアー等の開催や地域資源を紹介するホームページを作成しました。
- 博物館では、アイヌ文化に関する各種事業の実施や、旭川駅構内のアイヌ文化情報コーナー「ル・シロシ」の運営を通じ、アイヌ文化への理解を深める取組を進めました。また、ムックル演奏やアイヌ口承文芸の動画をインターネットで公開しました。

III 課題と改善に向けた今後の方向性

活発な文化芸術活動は、地域への愛情と誇りを人々の心に育て、活力ある地域社会の形成に役立つものです。また、先人から受け継いだ歴史と、これまで培われてきた文化を尊重し、次代へ継承するといった責任を果たすことも重要です。

本市では、郷土愛の育成に取り組むとともに、文化財やアイヌ文化、音楽・彫刻・文学・工芸品などの、魅力ある地域資源の保存と更なる活用により、旭川らしさの発信に取り組みます。

<5-1-1 郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用>

- 都市開発の進展等により消滅の危機に晒されている建造物や、後継者不足により伝承が困難となっている郷土芸能等の課題は、容易に解決できるものではありませんが、市民に文化財に関する理解を深めてもらい、保存・継承を進めていくためにも、広く紹介・活用する機会を今後とも増やしていきます。特に優佳良織については、継続的な支援により、製作可能な織り柄の種類が増すなど技能の高まりを確認していますが、優佳良織の技術は複雑かつ広範であることから、引き続き、技術伝承が継続的に行われるよう支援や補助の在り方を検討し、必要な措置を講じていきます。
- アイヌ文化については、各団体との連携を深め、各団体の活動の周知や支援の在り方について検討しながら、より多くの市民が参加できる事業の開催等を通して、理解の促進や将来に向かって受け継がれていく環境の整備に努めます。さらに完成したアイヌ記念館・新館の周知とイランカラプテ音楽祭の企画運営や広報等について相互に協力した事業展開などを行います。
- 図書館では、郷土資料について、今後も資料を適切に保存するとともに、より有効活用できるようデジタル化を進めます。また、これらを使いこなせる人的資源（司書）の養成を行います。

< 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進 >

- 社会教育課で進めるジオパーク構想関連事業において、ツアー参加者に実施したアンケートでは、回答者の約80%が住んでいる地域の好きなところは「自然」と回答しており、地域の自然を題材としたツアーは、愛着や誇りを高める取組になったと考えています。今後も、開設したホームページやSNS等による活発な周知活動を実施します。
また、ジオパークとアイヌ文化には密接な関係があることから、アイヌ文化を担当する関係部署との情報共有や意見交換を行い、連携強化を図ります。
- 井上靖記念館で実施している青少年エッセーコンクールは、応募者の増加に向けて、より身近で親しみやすいテーマを設定しながら、効果的な広報を行います。
- 旧借行社の保存については、必要に応じて文化庁等からの助言・指導を仰ぎながら、建物の適切な維持管理に努め、重要文化財としての魅力を発信していきます。
- 公民館では、地域の魅力を再確認するため、新しい題材や講師を発掘し、アンケートによるニーズ把握に努めながら、地域の特性を生かした事業を継続して実施していきます。
- 博物館では、より多くの方に地域の歴史や文化に関心を持ってもらえるよう、企画展や体験学習等の各種事業の充実に努めるとともに、SNS等を活用した博物館事業の情報発信に取り組みます。

第3章 学識経験者の意見

1 意見提出者

地教法の規定による「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用」として、本報告書について、次の2人の方から御意見を頂きました。

(北海道教育大学旭川校教授)

佐久間 章 (札幌国際大学教授)

2 本報告書に関する御意見

頂いた御意見について、教育委員会の考え方と併せて次のとおり掲載します。

(1) 教授からの御意見

～省略～

(2) 佐久間章教授からの御意見

「第2章 計画に基づいた点検・評価」について

御意見	教育委員会の考え方
<p>1 点検・評価全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度において、旭川市は社会教育基本計画の「中間見直し」を実施し、事業の成果目標の明確化および点検・評価方法の見直しを行っていることが明記されています。特に、「活動指標」と「成果指標」の設定に注力し、旭川市民アンケート調査や市政モニター制度などの手段を活用しながら、市民の意識や行動の変容を把握し、成果目標の達成度を評価する方針を採用しています。この方向性は、エビデンスに基づいた事業評価と改善に繋がるものであり、その取り組みは高く評価されます。 今年度の点検・評価報告書を見ると、昨年度の指摘事項が一定程度改善されていることが確認できます。特に、「Ⅱ取組の状況」と「Ⅲ課題と改善に向けた今後の方向」については、現状と課題・方向性が整理されて記載されており、これらは事業を評価する上で非常に重要な要素です。 「今後の課題と改善に向けた方向性」の中で、広報ツールとしてSNSの活用の記載(以下に示す主な取組)が散見されます。これからは、行政も積極的にSNSの活用を検討していくことは重要なことと思います。行政がSNSを広報手段として使うメリットは、多くの人に届けることができ、即時性や対話性があること、さらにコスト効率も高く、市民参加の促進も期待できることと思います。一方では、情報過多や公平性の欠如などのデメリットも懸念されます。SNSには複数のプラットフォームがあり、それぞれ独自の特性や利用者層が存在します。各プラットフォームの特性を分析し、適切な形式やコンテンツを選択することが重要となります。選択したプラットフォームの効果測定を逐次行い、旭川市にとって最も有効な手段の選択を検証すべきと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度以降については、社会教育基本計画の「中間見直し」による事業評価を実施し、エビデンスに基づいた課題の洗い出しや改善に向けた方向性の整理を行い、社会教育基本計画で目指す市民像の実現に向け、事業を展開してまいります。 本市では、公式 SNS として、LINE, Facebook, Twitter, YouTube, Instagram を利用しており、イベント情報の発信や学習情報の提供など、その内容に合わせたプラットフォームを選択し、効果的な情報発信に努めています。今後は、どの媒体で情報を入手したかを調査するなど、各プラットフォームの効果測定を検討してまいります。

< 1-1-1 現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進 >
 < 1-1-3 学習機会の選択を支援する情報提供の充実 >
 < 2-1-2 関係機関等との多様な連携による学習環境の整備 >
 < 3-1-1 市民が主体となって学習成果を還元できる環境の整備 >
 < 4-1-1 文化芸術に親しむ機会の充実 >
 < 5-1-2 郷土愛を育むための取組の推進 >

【基本目標1】市民一人一人の主体的な学びの機会の充実

・令和4年度も新型コロナウイルスの影響により、学習機会において以前のような参加者数の確保が困難であったと考えられます。しかし、新型コロナウイルスの感染状況が収束に向かっている今後は、学びに関する情報提供や様々な学びのニーズに対応した学習機会をさらに充実させることが必要です。特に学習形態については、従前の対面(集合型)による学習に戻すのではなく、コロナ禍で培った学習機会提供のノウハウ、つまりICTを活用したオンライン・オンデマンドの学習を組み合わせたハイブリッドな学習機会の提供が重要です。これにより、学習機会の地域間格差の解消や、移動や集まることに困難を抱える方々への学習機会の確保にも非常に有効となります。この点について、ぜひ検討いただきたいと思えます。

○現代的・社会的な課題やニーズに対応した学習の推進

・「情報化に伴うICTの利活用の促進」には、パソコン講座やプログラミング講座など、様々な学習機会が提供されています。これらはデジタルデバイドの解消に非常に有効な取り組みだと考えます。昨年も指摘していますが、公民館や他の社会教育施設にとって、Wi-Fiなどのインターネット環境の整備は必要不可欠です。市内の教育施設のインターネット環境の整備状況については記載がありませんが、市民の学習環境を充実させるためには十分な整備が期待されます。

・成人の初心者向け講座には、マンツーマンに近い対応が必要となることから、ボランティア人材の安定的な確保の必要性が今後の方向性に示されています。一般成人を対象に、初心者への指導を担うボランティア養成事業を充実させることは、重要なことですが、一方では、子どもたちを先生に、大人が学ぶといった取り組みは、全国でも散見できますので、検討してみたいと思います。

・社会教育部では、講座や講演会等において、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッドな学習機会の提供を一部実施してきたほか、科学館や博物館では、YouTubeによる動画配信、図書館では令和5年2月に電子書籍サービスを開始し、時間や場所にとらわれない学習機会を提供してきました。今後もこのような学習機会を提供していきます。

・大雪クリスタルホールや一部の公民館においてインターネット環境を整備しておりますが、他の社会教育施設においても導入できるよう、引き続き、予算要求を行ってまいります。

・子どもたちが講師となる取組については、子どもたちの自己有用感の面から見ても有効な取組であると考えられることから、公民館での実施に向け検討してまいります。

とりわけ、デジタルネイティブと呼ばれる現在の子どもたちは、幼い頃からスマートフォンやタブレット、パソコンなどのデバイスに触れる機会が多く、大人以上に精通している傾向があるのではないのでしょうか。子どもたちを先生する取り組みは、世代間交流の促進にもつながり、子どもたちにとっても大きな効果が期待できるはずです。人材確保の一助として、ご検討を期待いたします。

○ライフステージに応じた学習機会の充実

・社会教育課がコーディネートしたモデル地域における地域学校協働活動による学習機会は、子どもたちが地域について学び、多様な体験をすることができる取り組みとして高く評価できます。このモデル地域での取り組みを、市全体に広げるためにも、実証事例として成果と課題を積極的に発信・共有することが期待されます。

・「成人期のキャリアアップや趣味、教養に関する学習機会の提供」に関して、公民館では趣味や教養に関する幅広い分野の講座が実施されていることが述べられています。趣味や教養は重要な学習領域ですが、一方で最近はリスキリングという新しいスキルや知識の習得が注目され、現代の労働市場に適応し新たな仕事の機会を追求するために能力を高めることが求められています。リスキリングを推進するために、教育機関や専門機関との連携を図り、適切なカリキュラムやトレーニングプログラムを提供することも重要ではないでしょうか。

・公民館事業への参加が少ないことに対して、今後の方向性として、アンケート調査によるニーズ把握、現代的な課題に対応できる講師の発掘等、幅広い住民の興味・関心に沿う講座内容の検討を方向性として掲げています。しかし、現代的課題等の必要課題を扱う事業は、一般的に多くの参加者を集めるのは至難です。事業の目的を考えただけで、必要な事業であれば参加者が少なくても継続しつつ、併せて多くの市民に課題への学びの必要性を理解してもらい取り組みが必要ではないかと思えます。

○学習機会の選択を支援する情報提供の充実

・「講師情報や活動団体に関する情報の提供」の取組状況において、講師等から提供された具体的な指導プログラムを掲載した「あさひかわ学びの応援講座」を作成し、小中学校や子育て支援センターなどに配布したことが記載されています。講師バンクについては、全国的にも課題を抱える自

・社会教育課では、モデル地域における活動内容や活動による地域と学校への影響などをまとめた「旭川市地域学校協働活動通信」を発行しており、市内の小中学校や市民委員会などに送付しています。今後は、本市のホームページにも掲載するなど、より多くの方に情報提供を行います。

・公民館事業課では、趣味や教養だけでなく、今日求められている新たな知識の習得といった視点での事業実施を検討してまいります。

・住民ニーズに寄り添った事業を実施することはもちろん、市が抱える課題等に対応した事業を実施することも必要だと考えています。市民の理解をより多く得られるよう、事業後アンケートなどで事業内容を検討してまいります。

・「あさひかわの学びの応援講座」については、講座や講師情報のさらなる充実を目指し、内容の整理や見直しを検討しています。また、要請に応じて指導プログラムの研修会を開催するなど、サポート体制についても検討してまいります。

治体も多く、登録講師から活用されないなどの苦情が寄せられるケースも多いようです。指導プログラムの提供は、こうした課題解決の一助として大変有効と思います。また、昨年も指摘しましたが、登録講師の活用促進のためにも、指導方法やプログラムの展開等についての研修機会を設けるなど、登録講師の指導力向上をサポートするための支援策も検討していただければと思います。

・成果指標3「まなびネットあさひかわのアクセス件数」は、令和4年度の目標値を実績値が超え、達成している状況にあります。課題と改善に向けた今後の方向性に記載されているように、サイトのアクセス解析やデータ集計による分析、登録サークルへのアンケートによる検証など、詳細な分析を行い、市民にとって利便性の高いサイトとなるように常に改善されることを期待いたします。

・まなびネットあさひかわは、令和5年5月のリニューアルに合わせてサークルや講師情報を整理しているところです。様々な分析や登録サークルへのアンケートにより、利便性の高いサイトとなるよう改善していくほか、より多くの市民に活用されるよう周知してまいります。

【基本目標2】市民の学びを支える環境の整備

○市民の学習ニーズに応じた学習環境の整備

・旭川市の各施設では、施設の特性を活かした運営が行われていることが取り組み状況から確認できます。また、「今後の方向性」では、社会教育施設や関連施設が連携し、市民が施設を巡回する仕組みを定着させることが述べられています。このような施設間連携は、市民に多様な学習機会を提供するのに非常に有効です。今後は、施設間の連携による共同事業の展開なども検討していくこととお勧めします。施設の連携によって生まれるシナジー効果により、個々の施設では実現困難なユニークな事業も展開できる可能性があります。そのためには、市内の関連施設が定期的に意見や情報を交換する機会(場)が必要ですので、ぜひご検討いただければと思います。

・今年度は、図書館で科学館の企画展に関連した図書の特集するなどの連携を予定しています。今後は、様々な社会教育施設が連携できるよう、情報を共有する場の設定や仕組みを検討してまいります。

○関係機関等との多様な連携による学習環境の整備

・関係機関との連携により多彩な学習機会が提供されていることがわかります。とりわけ、高等教育機関との連携においては、昨今注目されるリスキリングに関するカリキュラムを提供できる可能性があると考えます。ぜひご検討いただければと期待しています。

・関係機関や高等教育機関と連携し、今日求められている新たな知識の習得に向けた学習機会の提供について検討するほか、働く世代が参加しやすいよう土曜日・日曜日や夜間の講座開催など、学習機会の提供方法を検討してまいります。

・今後の方向性に、他部局で提供している学習情報統一化を検討することが記載されています。このことは、学習者の利便性を向上させるうえでとても重要なことです。学習者が求める学習機会へのアクセスのしやすさは、学習情報提供において極めて大切です。この機会に、旭川市が提供して

・各部局が提供している学習・講師情報を集約して、「まなびネットあさひかわ」や「学びの応援講座」に掲載することを目指し、令和5年度においては、情報収集と整理をしてまいります。

いる学習機会の総点検と、情報の一元化についてのご検討を期待いたします。

【基本目標3】地域における学びの循環

○市民が主体となって学習効果を還元できる環境の整備

・生涯学習フェアでは、参加団体が主体的に企画や運営に参加するため4回の事前会議を開催するなどの取り組みを行ったことが報告されています。こうした取り組みは、学びの成果を地域に生かそうとする市民の意識向上につながったことが、参加団体アンケートからも明らかになっています。今後の方向性として、各団体に役割を持たせるなど、さらなる意識の向上を目指すことが記載されていますが、行政主導から住民主導へ、あるいは住民との協働は、これからの行政の目指す姿であると思います。今後の取り組みに期待いたします。

○地域社会を担う団体や人材の育成支援

・まちづくりを担う人材づくりを目的としている公民館のシニア大学について、今後、アンケート等で卒業後の状況を調査することにより、カリキュラムの見直しを図っていくことが記載されています。このような具体的なデータに基づき、効果的なカリキュラムの構築に向けた改善策を進める取り組みは非常に価値あるものと言えます。

○家庭、地域、学校の連携による青少年などの活動を支援する取組の充実

・「地域学校協働活動」のモデル地域においては、多彩な活動が展開されていることは、高く評価できます。今後の方向性には、モデル地域における実践を続けるとともに、住民が地域や学校の活動に主体的に参画する意識の醸成を図り、学校を核とした地域づくりを進めていくことが記載されています。しかしながら、モデル地域の取り組みは、全市的な展開へと移行するためにその成果と課題を蓄積し情報共有することに意義があります。モデル地域の成果と課題の共有と有効活用に期待をいたします。

・公民館では、地域のニーズを把握できるよう、関係団体や学校との連携を密にし、それぞれが連携して行う子どもたちのための活動の支援を行っていくことが、今後の方向性に記載されています。成果指標3に示されている「高齢者が参加する世

・社会教育課では、引き続き、事業評価を基に方向性を改善しながら、市民が主体となって生涯学習フェアを企画・運営し、その成果を地域に還元できるよう、参加団体を支援してまいります。

・公民館事業課では、シニア大学生の追跡調査等を実施しながら、適宜カリキュラムを見直してまいります。

・現在、3つのモデル地域において地域学校協働活動を実施していますが、それぞれの地域での活動における成果や課題を整理・共有しながら、さらなる活動の推進とその仕組みについて検討してまいります。

・公民館では、小学校の昔遊び学習において、百寿大学の学生が支援者となり世代間交流を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していました。今後も学校との連携を密にし、地域の世代間交流が

代間交流事業」は、コロナ禍において十分な実績を残すことができていない状況です。そこで、高齢者を子どもたちの学習支援者とすることで、世代間交流の促進にもつながるのではないかと思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

【基本目標4】市民の心を豊かにする文化芸術活動の充実

○文化芸術に親しむ機会の充実

・文化芸術に親しむ機会を充実させるためには、①多様なプログラムの提供、②アクセスの向上、③教育と情報の普及、④コミュニティ参加の促進、⑤資金と支援の確保、などを考慮することが大切だと思います。旭川市では、これらの要素を考慮した取り組みが行われていますが、「アクセスの向上」についての点検は、行われているのでしょうか。文化芸術施設へのアクセスを点検し、必要に応じて改善することで、より多くの人々が文化芸術を楽しめる環境を作ることができるのではないかと思います。

・文化会館やクリスタルホールの自主文化事業については、アンケート調査でも参加者の満足度が著しく高いことが明らかになっています。今後も魅力的な事業を提供し、芸術や文化への関心を一層高めると共に、広範な市民が芸術や文化に触れる機会を拡充されることを期待しています。

○文化芸術活動への支援

・文化会館での高校生向けの演劇技術講習会やワークショップ、さらには「ACAG」の開催が行われています。一方、クリスタルホールでは小中学生に音楽堂のグランドピアノを無料開放し、小学生向けに楽器の仕組みを学ぶ講座などを提供しています。これら若い世代への積極的なアプローチは、非常に高く評価できます。

【基本目標5】郷土文化の保存・活用と郷土愛の育成

○郷土の文化や歴史的資料の適切な保存と有効活用

・優佳良織については、その技術を伝承し後世へ継承するため、優佳良織技術者の育成活動への助成を行い、2名が技術習得したとのことですが、旭川市を代表する貴重な工芸品であることから、引き続き技術者の育成に取り組まれることを期待いたします。特に、継承のためには、若者に関心を持ってもらうことが重要です。教育・啓発を強化することはもちろんですが、優佳良織の伝統的な技法を用いながら、新しいデザインや用途を取

促進されるよう事業を検討してまいります。

・参加者アンケートにおいて施設へのアクセスを点検するなど、市民の文化芸術施設へのアクセス方法の把握に努めてまいります。

・市民が様々な文化芸術に触れる機会として、引き続き、魅力ある自主文化事業の実施に努めてまいります。

・次代を担う子どもたちの世代から文化芸術活動への興味や関心を高める取組を進めることが重要であると考えているため、引き続き、若い世代にアプローチできる事業の実施に努めてまいります。

・織元の残した織柄の改変や新たなデザインの採用は、保存伝承という観点においてはなじみませんが、若い世代に関心を持たせる取組の必要性を感じています。今後は、若い世代を含め多くの方の興味・関心を高めていく取組を検討してまいります。

り入れるなど、伝統と現代の融合を図ることで、若い世代にも魅力的な要素を提供する手段となるのではないのでしょうか。ぜひ、検討していただければと思います。

○郷土愛を育むための取組の推進

・周知活動，効果的広報，魅力の発信，情報発信等の文言が文末に並んでいます。ここでの課題は、何と言っても広報の手段にあるのではないかと思います。広報する内容やメッセージは、ターゲットオーディエンスに合わせてカスタマイズする必要があり、さらには、どのような人々に対して情報を発信するのかを明確にし、対象者の関心やニーズに合ったコンテンツを提供することが重要となります。SNSの活用については、冒頭にも記載しておりますが、複数のプラットフォームがありますので、それぞれの特性を分析し、最も有効な手段の選択を検討すべきと思います。

・広報については、周知する内容やメインターゲットに合わせて、広報誌やポスターなどの紙媒体，SNS，報道機関への報道依頼など様々な方法を検討し、効果的な手段を取り入れてまいります。